

### 浴槽水と水質管理

東京都の公衆浴場は、東京都生活文化局の調べによると自家用風呂保有者の増加に伴う利用者の減少等により、転廃業が続いています。2006年には東京都内に公衆浴場は963施設ありましたが、2019年12月時点では520施設に減少しています。皆さんも、週末や休日のちょっと疲れた時に近所の銭湯や、サウナ、スパなどで心も体もリフレッシュした経験はありませんか。

日本人は世界でも稀にみるほどのお風呂好きですが、世界的にみてもお風呂に浸かるという文化は珍しいようです。「風呂」という言葉は、「むろ（室）」が訛った言葉という説が有力で、昔はその名の通り、小さなほこらなどの狭い場所に蒸気を溜め、その蒸気によって体の汚れを落とす蒸し風呂が最初だったようです。水が貴重だった江戸時代の銭湯も当初は、蒸し風呂タイプが主流でしたが、明治時代になり、「湯」と呼ばれる、現在のつかる入浴スタイルが主流となりました。

この「浸かる風呂の湯」が浴槽水です。公衆浴場では、多くの入浴者によって持ち込まれる皮脂や垢などの有機物が浴槽水に混入し、これが口の中に入る可能性は高くなります。浴槽水のろ過や浴槽内の清掃・消毒を行っていても、衛生的に管理されているかを確認するためには、水質検査が不可欠になります。また、24時間風呂の循環式浴槽水からレジオネラ属菌による汚染がたびたび報告されています。レジオネラ属菌は急性肺炎に似たレジオネラ肺炎や、インフルエンザに似たポンティアック熱を引き起こすことがあるので注意が必要です。ご自宅で循環式浴槽水を使用し不安に思われている方は、一度、レジオネラ属菌の検査を受けて見てはいかがでしょうか。

当研究所では、レジオネラ属菌を含め、浴槽水やその他各種の水質検査を行っています。ぜひ、ご利用ください。